

週寫眞
報

編輯部報情閣内
ンセ十・號七卅百第・日九月十



外交の
新しきかど出



旅 船 の 鍊 環



満洲へ

台湾へ

沖繩へ

横濱—神戸間
神戸—門司間

大型船の旅

大 阪 商 船

日露伊間の三國條約は九月二十七日つひに成立した
天皇陛下には條約の成立に當り、畏くも詔書を喚發あらせられ、國民のむかふ所をお示し遊ばされたが、近衛内閣總理大臣また、大詔を拜して内閣會議を發し、同時に松岡外務大臣も議話を發して新しい國際關係に處する帝國の方針を明かにし、國民の確たる態度を要望した
三國條約の成立によつて日露伊の樞軸はこゝに強化され、三國共同の理想である各國をしてその所を得させようとする世界新秩序の建設は一段と促進されるであらうが、大東亞の指導者としての帝國の使命と立場はこれとともに愈々重大を加へることを思へば、われわれ一億同胞眞に心を一つにして今こそ一大決意を固めなければならない

當面上は三國條約成立の夜外務大臣官舎で乾杯する（右から）オット獨大使、インデリ伊大使、松岡外相、星野無任所相、東條陸相、下はベルリンの總統官邸に於ける調印式右から來栖大使、リッペンントロップ獨外相、チアノ伊外相（電送）



欺瞞と矛盾の舊世界秩序



日獨伊三國條約の成立によつて、三國はそれ／＼東亞及び歐洲で新秩序の建設といふ共同目標に向つて一致協力、力強い一歩を踏みだしました。

さきに防共協定を結んで固い精神的結合を表明した三國が、あれから四年後の、しかも一世紀をこの間に押し縮めたやうな世界情勢の目まぐるしい變遷の中にあつて、共通の世界觀から三國條約が結ばれたことは當然の結果であるといはねばなりません。三國が結ばれる必然さとは何でありませうか？ これはいふまでもなく帝國主義的侵略によつて富や領土を必要以上に獲得し、占した英米が、歴史の流れを無視して、彼等が固執する個人主義に根ざした所謂世界新秩序を何處までも強制して、自分達にばかり都合のよい状態を維持しようと、ことごとくに經濟的な壓迫と不當な干渉を續ける國々の態度に起因するのです。しかし歴史の流れは寸時のよどみもなく絶えず前進してゐます。こゝに懸れる古い體制が、生活の旺盛な新しい勢力に崩される運命にあるのは當然でせう。この現れが、即ち期せずして東亞と歐洲に發展した新秩序の建設運動です。つまり英米等の舊秩序を維持しようとすると、國々の不當な壓迫と妨害とに對して三國がとらざるを得なかつた當然の態度が今回の三國條約となつて現はれたのです。ドイツはヴェルサイユ條約の重壓と暴戾を、イタリヤは貪食な國々の甘言と壓迫の不渡手形を、わが國は東亞における不當の手續を打切つて、共に新興民族の共榮を確保するためにその樞軸を強化したのであります。上國が語る！ 勃然と盛り上つてきたこの世界新秩序の建設を、敢へて「金權と強權」で阻止しようとする舊秩序維持國家群の飽くなき貪慾の姿を——（讀物頁参照）

舊秩序が示す不均衡

本國と領土比率

獨日	伊	米	佛	英
□	■	□	■	■

他の 三〇%

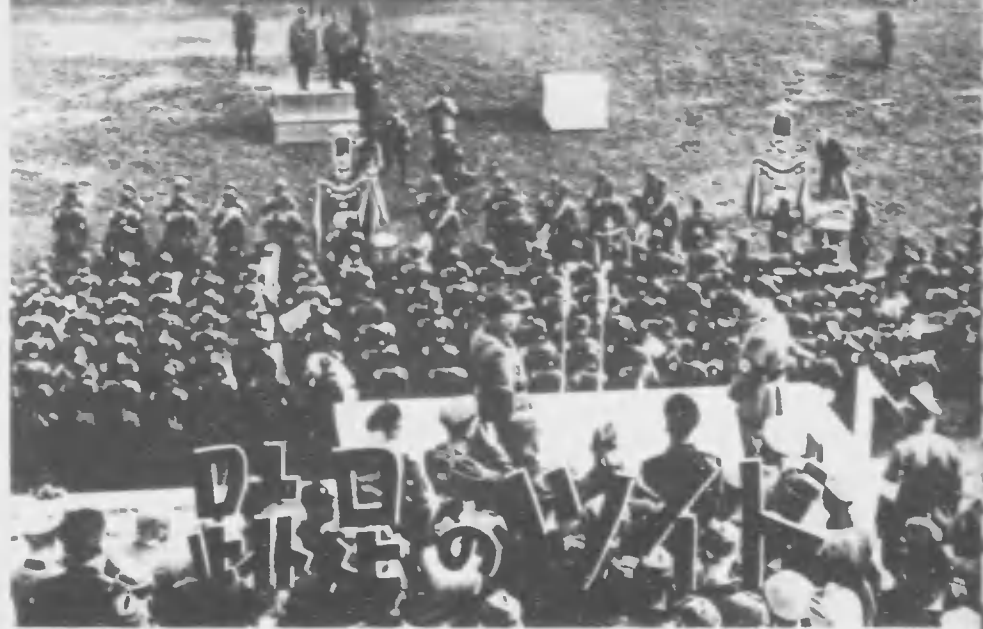
原産原料生産比率

伊獨日	佛米英
■	■
八%	六二%

例凡

■ 英米勢力の及ぶ海陸	■ 伊獨軸心
■ 日滿支アソップ	■ 主として英米の海陸勢力
■ 主として米の海陸勢力	■ 主として英米の海陸勢力
■ 土領國英	■ 土領國英

昨年九月、ポーランド進軍の火蓋を切つて以来、ドイツが擧げた戦果は正に史記の筆墨にあり。前大戦において、一敗地に墜れたドイツは、二十有餘年の今日、この國天の大業を成就し得たのは、ヒトラー總統の烈々たる意志、大なる人格、政治的天才によるのは疑いなく、その背後に全ドイツ國民の火のやうな愛國心と不屈の獨逸魂のあることを忘れてはならないことは明である。しかし敗れて起らない「恥だ」ドイツ國民は泣いて再起を誓ひ、戦後國內の混亂、生活の窮乏をのりこえて遂に今日に至つたのである。



一九三二年 前世界大戦に敗れたドイツは英佛側のおもむきなき窮乏に加へて深刻な國內闘争の十餘年を経験せねばならなかつた。ユダヤ人の謀略、共産主義の政策、國內は血闘の殺戮と破壊に充たされた。



ベルサイユ條約によつて一千億マルクといふ龐大な賠償金を課せられたドイツの經濟、産業界は混亂の極に達し、恐ろしいインフレーション時代を現出した。日方で賣れるマルク紙幣

現在の日本もまた有史以来の困難に逢つてゐる。これを克服し、支那事變の完遂を期し得るものは、唯御機成の下、一億國民の烈々たる愛國心と大和魂の發露あるのみである。日、獨、伊三國協約が成立して、世界に新しい歴史の幕が開けようとしてゐる今日、國窮のどん底から起ち上つて、同じやうな民族の運命を開拓してきたドイツの苦心の跡を辿つてみようではないか。

一九三三年 物資の缺乏に伴つて國民の生活は悲惨の極に達した。營養の不足から流す癖、餓に苦しむ愛兒を抱いて狂氣する母、食を求めてさまよふ缺食兒童の群はまさに地獄を思はせる。

一九三三年 不逞不屈の獨逸魂は、ヒトラーの出現と共に十餘年の苦境を克服した。この年一月三十日、遂にヒトラーを總理とする内閣は成立し、ドイツ第三帝國獨立の輝かしい第一歩を踏み出したのである。

一九三四年 八月十九日、人民投票の結果、ヒトラー總統を最高指導者とするナチス・ドイツが完成されるや、直ちに對外的な活動を開始、一九三五年三月一日にはザール地方がドイツに復歸した。

一九三五年 ナチス外交はその出發においてザールの大勝利に勢ひを得、更に三月十一日には空軍の復活、同十六日には義務兵役の復活を發表して全世界驚愕の中に再軍備を宣言實施した。



ヒトラー總統が政権を獲得した時、總統は先づ家庭生活が昔の状態に歸らねばならぬと叫んだ。母と子を保護し、ゲルマン民族の純潔を保ち、輝かし、ドイツ國民を將來に準備することが不可欠の處置であつた。

六百餘萬の失業者救済のために計畫された土木事業のうち、國營自動車専用道路の建設事業は、ドイツ第三國家の事業の表徴とされ、單に失業者救済問題を解決したばかりでなく、自動車工業の急速な發展を促した。

滿十八歳から二十五歳までの全ドイツ青年は六月間、鉄とシャベルを掲げて國家に奉仕する義務がある。この勤勞奉仕によつて全ドイツ青年はヒトラー總統の行動の精神を學ぶのだ。

ナチス政權確立以來僅か數年にしてドイツの各生産部門は飛躍的發展を遂げた。各生産部門内の組織が改革されて全従業員が一丸となり、眞に勤勞奉仕の精神を以て偉大な生産力を發揮したのである。

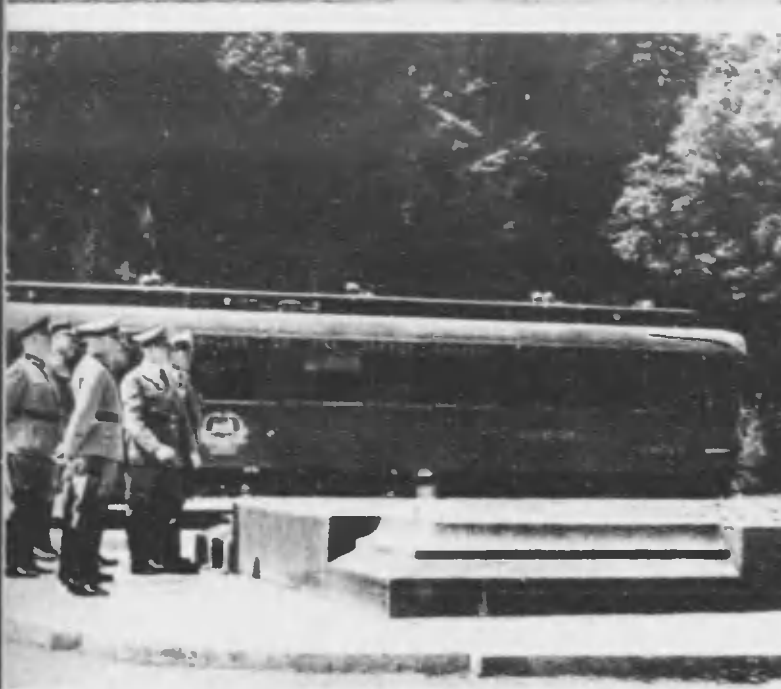


一九三八年 三月十三日、疾風迅雷無血の裡にオーストリアを合併してドイツ多年の懸案を一舉に解決したが、同九月二十九日にはミューンヘン會議の結果ズデーデン地方もドイツに割譲された。

一九三九年 九月一日、ドイツは歴史的なポーランド進軍を開始し、三日には英佛と戦争状態に入つた。英佛依存的なポーランドを脅かすと共に、英佛の全權政治に對して最後の總決算を挑んだのだ。

一九四〇年 北佛ロンビエーヌの森の製空艇でドイツが屈辱的な休戦協定調印を強ひられてから二十三年目の六月二十二日、ドイツは驚々たる勝利者として同じ製空艇で對佛休戦協定に調印した。

ドイツ空軍のロンドン空襲は益々猛烈を極め、ましても大ロンドンもその機能の大半を失つた。ドイツ空軍はザールリング空軍の指揮の下に歐洲秩序の癆を根こそぎ滅しようといふのだ。





アルプスを越えてドイツと、海を渡って日本と固く手を握り合った新興イタリアも亦第一次大戦後の疲弊と混乱のどん底から立ち上りムソリーニ首相の統率の下、粒々辛苦今日を築きあげたのであった

ヴェルサイユ条約の不正な枷を強ひられたのは戦敗国ドイツだけではない。戦勝国イタリアも亦その下に閉じこめられたのであった。「イタリアは断じて地中海の主人たり得ない」とのムソリーニ首相の叫びはそのまゝ、イタリア國民の聲であつた。事實、エチオピア併合以來イタリアの國運はフランスの政策の實行によつて年と共に伸び、南歐に著々強力な地盤を築いてきた

こんどの歐洲戦争勃發するや去る六月には敢然として参戦、志を同じくするドイツと共に歐洲新秩序建設の戦ひに國家の総力を動員して輝かしい戦果を収めてゐる。近代文明の光榮ある創始者たるイタリアが今や更に日本と相携へ、再び地中海をわが海として世界新秩序建設に大きな役割を果す明日の活躍こそ期待して期待するものがあらう。こゝにイタリア最近の國情を紹介する。



音聲のアリタイ

◁ 獅子吼するムソリーニ



◁ イタリアの軍備
地中海を東西に縦断するイタリアの軍備は同時にイタリアの生命線でもある。エチオピア征服の餘勢に乗じて地中海の強化に乗り出した伊海軍は地中海を「ローマの海」とたらしめようと燃々たる希望に燃えてゐる

◁ マルタ英軍港爆撃に向ふイ空軍の編隊
イギリス地中海艦隊撃滅に活動する精銳、前より主力艦カブール波、シーザー突

◁ すばらしい重工業
輕工業では織機工業を主として、世界有数の生産國であるが伊戦争以來重工業方面も急速に發展、飛行機、自動車、造船、造兵等各工場は軍需機材の製作に大馬力である。殊に航空機製作に關しては現在、スピードに高度に國際記録四十餘を獲得してゐるのを見ても優秀な技術のほどが窺はれる。廣大な陸上試走路をもつファイアット自動車工場

◁ チルノの運動
國家再建は青少年の訓練から。イタリアを防衛する次代のファシストを養成するため六歳から二十一歳までの男女青少年を九部隊に分つチルノを編成、信義、服従、闘争をモットーとして心身の鍛錬、團體訓練を行つてゐる

◁ 餘暇善用運動
ファシスト大衆の文化施設として國營のドボラツキオ(仕事の後)運動がある。趣味、體育、社會保健事業等各方面にわたり餘暇善用の實を擧げてゐる。工場に於ける巡回樂團の演奏

◁ 駒を進めて國境を越える
去る六月世界新秩序再建のため勇躍参戦したイタリアはドイツ軍のフランス進駐と相呼應し直ちに作戦行動を開始した。國境を越えてフランスへ進軍するイタリア軍の精銳





新制 億一民に役にたつ

☆代用皮革 伊ヶ崎吉一

YOSHIKAZU

☆南も寒い 浅田しず子

☆動力節約 三浦よづる

☆國策散步 清水良甫

高橋退輔問答

(問) 国民服の種類、価格や儀章の備用方法をお知らせ下さい。なほ国民服に帽子は必要でしょうか

(答) 国民服の種類、価格は別表の通りです。儀章は従来左の胸にのけることになっておりましたが、近右の胸にのけるやう改正をせざるやうに儀章は従用として用ひられます。本表の場合は、これを左の胸の胸章をのけます。帽は今のところ何でも結構ですが、いふ外表は、

種別	衣	袴	中	衣
一 號型	四、五〇〇位	二、〇〇〇位	六、五〇〇位	六、〇〇〇
二 號型	四、七〇〇	二、二〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇
三 號型	四、四〇〇	一、九〇〇	六、五〇〇	六、五〇〇
四 號型	三、八〇〇	一、六〇〇	六、〇〇〇	四、五〇〇

(問) ルーズヴェルト、ヒトラー、ムソリーニ、チャーチル、ヘタン、スターリン、フランコの本當の名前を

(答) 指導者國家 (Führer State) とはドイツのやうな國家のことを申しします。ナチスの見解によれば、従來のやうに投票によつて得た多数派が少數派を壓迫して權力を恣にするといふやうなやり方、つまり個人主義、議會主義、民主主義の國家で

(問) しばく話題にのほる指導者國家とはどういふ意味ですか

(答) 指導者國家とは、指導者がその指導方向に沿つて統治するのです。指導者國家とは、さういふ意味のものですが、指導者は勿論現在にはヒトラー總統です。ドイツ軍律法により、指導者は能力、態度、志操によりて軍隊を指揮するといふものがあります。指導者は權力を以て威嚇を以て國民にのぞむこととなります。ドイツにも國民投票はありません。しかし指導者のやることに、全無責任を要するやうに、黨が國民をナチス的に教へこんでゆくので、反對のあるはずがなく、これが指導政治であり、また專制政治、獨裁政治と根本的に違ふ所といはれます。

「國民進軍歌」

一 この陽、この空、この光、アジヤは明けの 巖かに。燃える希望の 一億が 傷痍の勇士 背に負うて、いま 踏みしめる 第一歩 使命にこぞる 進軍だ。

二 その血、その肉、その生命、國に捧げた 忠魂に、盡きの感謝の 一億が はまれの遺族 守り立てて、いま 足音も 高々と 理想つらぬく 進軍だ。

三 あの子、あの父、あの夫、皇國の楯と 征きに征く。奮ふ銃後の 一億が つはものの家 扶けつ、いま 前線に 呼應して、聲もとどろく 進軍だ。

四 わが身、わが意氣、わが力、心一つに 協せつ、固い覺悟の 一億が 歸還の勇士 先立てて、いま 大陸に 大洋に 國をあげての 進軍だ。

十月七日發行

撮影 東京日々新聞社

銃後奉公強化運動
十月七日

光の庭



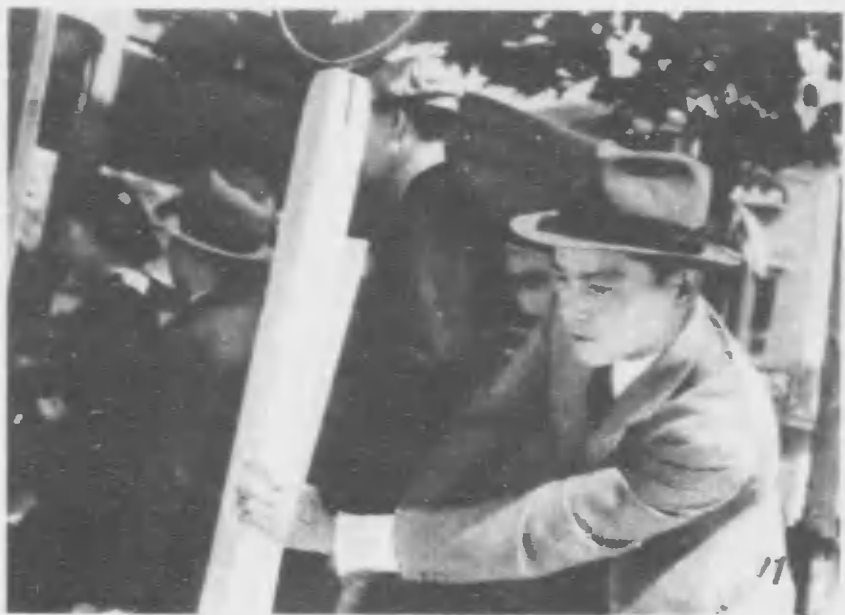
主演 佐川 登壇
杉山 三郎
村田 春子
原 保子
東原 泰三
長谷川 裕見子
佐々木 幸子
藤原 釜足
高千穂 ひづる
日守新一
日守新一
日守新一

月出征したばかりの杉山家へ、退院の挨拶に訪ねてきたのだ。前から、家族のやうに入入りしてゐた彼を、夫人の明子は、親しく迎へてくれた。『先づ、あれを御目にかけなくつては、ほら向ふに建つてゐるのが、豫ねてお話ししてあつた私設母子寮なの。』



カーテンを開いた窓から見ると、廣い芝生を隔て、昔雜木林であつた通りに、アパート式の建物が一棟建てられてゐる。『ほう、豫想以上に立派ですね。』慎吾は、それを見るとき、途中、心にうけた打撃も消え去つて、晴々とした氣持になつた。『結婚して八年にもなるのに、未だに子供が無くつて、閑な身體なんですもの。せめて會社関係で出征なすつた御家族のお世話でもして上げなけりや。』貴方も會社へ出る途、この御仕事手傳つて頂けませんか？ 妹も、すつかりい、保母さんになりませう。

『ああ、聞いておます、何だか、應召した、矢張孤獨な、村田工員の遺児を與つて世話しながら、こゝから會社へ通つてゐるさうですね。』『どうして、知つてゐらつしやるの？』『前に、よく見舞に來てくれましたので。』『さう、昨日、退院したよ。』『さう、よかつたわ、元氣漸刺としてゐるわね。』『はは、元氣漸刺はよかつたな、處で春子ちゃんはどうしてゐる？』



芝生では、この春女子大を出たばかりの靜江が子供達を集めて、紙芝居を熱演してゐた。靜江の案内で、慎吾は、母子寮を見て歩いた。『國家でつくる母子寮だけでは迎も足りないんですものね。姉が思ひ立ちましたの、義兄も私も大賛成ですわ。今の處四十八人の方たちが住んでおらつしやるのですけれど、皆さん逆も眞剣に働いてらして、私など取れいことばかりですわ。』

その時、『先生』『先生』と、遠くから子供達の呼ぶ聲が聞えて來た。『ちよつと、失禮』靜江は、子供達の方へ駈けて行つた。

と思つた瞬間、佐川慎吾は危く、停留所の標識で身體を支へてゐた。彼を押除け、先を争つて乗りこんだ乗客を乗せて、バスは忽ち立去つて終つた。『さう、昨日、退院したよ。』

慎吾の、出征前の勤め先である化粧品會社の社長杉山三郎は、同郷の先輩であつた。彼は、その三郎も今は歩兵中尉としてつひ先々

『村田から、手紙が來るか？』『ええ、孤獨な者が孤獨な者へ寄せる同情、そんなものが前後の考へもなく、かうさせたらんだけれど、皆、誤解して、私と村田さんの間に何かあるやうに言ふのよ。一時は、後悔したんだけれど、可哀相に、春子ちゃん、こんな私でもすつかり頼りにしてゐるので、もう離れられな

らないのだ。勤めのひまにする仕事だから僅かの金にしかならなかつたが、それが、春子ちゃんの御菓子になるのだ、と思ふと、やめられないのである。それ程にしくとも、經濟的援助はしてやるから、と杉山家で言ふのだが、自主心を鈍らせる故、出来るだけ金銭上の援助はしないといふのが母子寮の立前であつた。それは正しかつたし、奈代は率先して皆に範を示すつもりで杉山家の中出を固辭してゐるのであつた。授産所では、大勢の女達が、かひがひしくミシンに向つて白衣を縫つてゐた。丁度計算日だつたので、奈代は暫らく、窓口で待つてゐると、八人



杖を離れて、自由に仕事ができる途、慎吾は杉山家に起居して母子寮の世話をする事になつた。先づ、午前六時には一同を集めて朝禮の會をする。點呼、宮城進拜、續いて皇后陛下御歌の奉誦。にはをしのびてすくすやからを

女子供達は聲をそろへた。次に行ふチオ體操を軍隊式に改めたのは、子供達の熱心な希望によるものであつた。慎吾は、不自由な足を忘れて元氣よく號令をかけた。七時になると、母親達は、子供を靜江に頼んでそれぞれ仕事に出かけてゆくのである。



栗原奈代は、會社がひけてから、授産所へ寄つた。春子ちゃんがお腹をすかして待つてゐるのだらう、と思ふと心は急ぐのだが、でき上つた編物を届け、また新しい仕事をもらつてこなければな

の子供をかかへて出征の留守を護るといふ小母さんも仕立物を持つてやつてきた。それを見ると、疲れた奈代の心にも又新しい勇氣が湧いてくるのであつた。



毎朝缺かした事なかつた明子夫人が、朝の會に姿をみせない日が続いた。慎吾は半ば詰るやうに理由をたづねた。

「實はね、奇蹟が起きたのよ、赤ちやんが生れるの。三郎もどんなに喜ぶでせう。すつかり諦めてゐたのですから。さうなると、女は矢張り子供を立派に生んで育てるのが務めぢやないでせうか。私の我儘かしら。でも、お仕事はやめやしませんわ、氣まぐれに始めたんぢやありませんもの。それに就いてね、慎吾さん、この間から静江が言つてゐますの。突然で失禮かも知れませんが、あなたと結婚して、御不自由な御身體を助けて上げる事が出来たらつて。どうでせう、静江の氣持、わかつて頂きますか？」

秋、冬と過ぎて、四月のある日――
母子寮の中の一軒の主人が目出度く歸還して、さうやかな歓迎會が催された。



歸還勇士を圍んで、久しぶりのびくとした女達は、設けられた壇に上つて、歌をうたひ、勇士達も得意の浪花節をうたつたりした。そのよるこびのさ中に、邸の二階から、元氣のいい赤ん坊の嗚々の聲が聞えてきた。明子夫人が無事出産したのである。その夜、何故となく遠瀬な氣持になつた静江は、慎吾に思ひ切つて言つた。

「半年お待ちしましたのに、あなたは、何ともお返事をして下さらないのね」

「御好意は有難いと思つておます」

然し、慎吾にしてみれば、静江の自分に對する同情といふものが、高い所から物を悪むやうな氣持から出てゐるやうに思はれ、彼女の厚意を受けかねてゐるのであつた。

栗原奈代の顔色がこの頃餘りすげないので、慎吾は、無理に醫師の診察をうけさせた。すると、過勞の爲全身的に衰弱し、多少呼吸器

が痛められてゐるとの事で、今静養すれば完全に健康をとり戻せるが、この儘無理をすると、取返しつかない事になるとのことであつた。早速静養するように奈代へ勧めに行つた静江は、浮かぬ顔で歸つて来た。

「どうしても嫌ですつて。あたしは軍人の遺族で、なんでもないから、そんな事をして頂いてはすみません。それに、春子ちゃんを責任を持つて預



が痛められてゐるとの事で、今静養すれば完全に健康をとり戻せるが、この儘無理をすると、取返しつかない事になるとのことであつた。早速静養するように奈代へ勧めに行つた静江は、浮かぬ顔で歸つて来た。

「どうしても嫌ですつて。あたしは軍人の遺族で、なんでもないから、そんな事をして頂いてはすみません。それに、春子ちゃんを責任を持つて預

かつてゐるんですからつて――いくら言つても、かうなれませんもの、孤獨な人つて、どうして、あんな風に素直になれないのでせう」

静江はそんな感情的な言ひ方をした。慎吾は自分で行つて見ると、奈代は、脊中を丸くして繻物をしてゐた。

「私の病氣が重くなり感染する危険があるやうにでもなれば、その時は何處かへ行きます。春子さんもそれは、春子ちゃんを離れません。春子さんも

奈代と結婚したい、といふ自分の希望が一時の感情に驅られたものではないか、といふ事を十分確めるには、可成の時間を必要としたが、漸く心も決まつて、明子夫人を通じ奈代に話して貰ふことにした。

その前に静江の了解を得て置きたいと思つて、率直に自分の氣持を話した。

「さうして上げて頂戴、貴方を助けて上げたと思つたのですけれど、上げたい、等と思つて

ゐる間は、まだ一駄目なのね、今の仕事をしてゐる私の氣持の中にも、さういふ駄目なところが澤山あることがやつと判りましたの……」

静江は涙にうるんだ目を伏せた。

「あなたの御好意は忘れません」

頭を下げる慎吾に、彼女は靜かに首を横にふり微笑んでみせた。

奈代を漸く説得した慎吾が、彼女を湘南の知人に托して歸つてくると、静江が玄關へ飛び出してきた。

「お義兄様が、戦死なすつたの！」

慎吾はふいに右足の義足がぬけ落ちたやうな心持がした。急いで二階に上がつてゆくと、燈りをあげた佛前で、子供を膝に抱いた明子夫人が、靜かに掌を合はせてゐた。

やがて、ふりかへつた夫人は、帯の間から一枚の葉書を取りだして、慎吾の方へさしだした。

――これから第一線へ赴く。子供を立派な日本



人に育ててくれる事、お前は、お前が信念をもつて始めた仕事を力の限り續けてくれること、私の希望はそれだけだ。三郎

きちんとした横書でした。めであつた。

「この葉書が届いて、二時間もしないうちに戦死のお報せを受け取りましたの。……私一人の力では、夫の遺した言葉を何處まで守り通せるやら……色々な事もありましたが、どうか此の後も、私のさうやかな仕事を助けて下さいませ」

11

――三郎の英靈も歸り、葬式もすませて間もなく六ヶ月の静養で、すつかり健康をとり返した奈代も歸つて来た。

それぞれ、大きな悲しみと苦惱を乗り越えて、杉山家と母子寮の、新しい生活が力強く始まる共同の生活、共同の運命に、しつかり心を結び合はし、明日を築く此處の世界を表徴するやうに春子ちゃんも、明るく朗かに成長してゆくのであつた。



大陸の學生報國隊



暑中休暇を利用して大陸建設に汗の奉仕をしようとする支那支、渡瀨した各大学専門学校の學生隊は夫々各地に活躍、現地の多大な感謝をおみよげに先頭隊東した。写真は北支に向つた學生報國隊並びに中支渡瀨隊の活躍振り

大陸に建設の熱を入れる喜び、思はず力が入る。こゝがかつての激戦地だ。興亞の礎石となつた陸軍隊將兵の尊い血潮を流して無駄にしてはならない。土を掘るみんなの胸に堅い決意が通ふ

交通調査、日本側警備區域を中心に蘇州河越えて出入する者の統計をとるのだ。虹口側の橋の袂には工部局の巡警と陸軍隊の哨兵が仲好く立つてゐて、隣接都市上海の明朗な姿をあらはしてゐる

撮影 支那方面艦隊報連部



上海南京路の約十三萬坪には海軍の長忠塔とそれに附屬した公園が造られることになつてゐる。指導官友成中佐の話では、總工費は七十萬圓でそのうち幾分でも寄附を仰ぐ豫定にしてゐたところが、この話を聞いた上海居留民團では早速十七萬圓の寄附をよせたさうだ

ぐ浮んでくる。現地では、海軍の指導下に、お互ひにしつかり手を握り、眞剣に奉仕作業が行はれてゐるのだ。そこには一分の隙も緩みもない。上海でのわれ／＼の勤勞作業も、此處で道路の建設に當ることであつた。あちこちに近頃出来た誇りの舗装されてゐない道路が延びてゐる。作業は、モッコを担ぐ者、土を掘る者、道を均す者、三列に分れて始められた。土を掘つてゐるとよく人骨が出てくる。それもその筈、この邊一帶には上戦國の一番激しかつたところで、支那兵の戦死者もあるかも知れない。何れにしても餘り好い氣持ではない。何れにしてもスコップを握つておれば流れるやうな汗だ。三十分働いて十分休

むといふやうな調子だが、建設に従事する喜びは何物にもかへがたい。自分達の手で少しづつ延びてゆく道路を眺めてゐると、躍りあがりたいたやうな喜びが湧いてくる。夏草の茂みの中では人おちしない鶯がしきりに鳴いてゐる。有聲前フランス人の病院だつたといふ赤煉瓦の建物が原つばに壊されてゐる。その隣にはいづれ支那貴人の墓であらう、石の塚に圍れて豪華な石碑が建つてゐるが、いづれも数日中には取壊される運命にある。當時の激戦を想起すれば、小高い丘、白亜の壁、餘りにも平和すぎる風景だが、その底には再び激しい建設の意欲が流れてゐるのだ。ふと、しみ／＼とした感傷が催されて、しばしスコップの手を休

(關西學院大學生手記)



北京東東練兵場で北支派遣軍最高指揮官多田中將の閱兵
奉天發端の地一文字山に勢をひろひて今日の仕事の對富



真週報 昭和十五年十一月九日 郵政省特許 昭和十五年十一月九日發行 郵政省特許 昭和十五年十一月九日發行



奉祝紀元六千

支那變遷國情

郵傳部出版 十一月一日

藏省

內閣印刷局印刷發行

印刷部 印刷局 印刷發行